



2019 年度体育会功労賞授与式

～特設ページ～

1. 功労賞とは

功労賞とは、4年間の体育会を通じて、選手・学生スタッフとして各部または関西学院大学体育会の発展に大きく寄与し、人物的に優れた者に贈るものである。

2. 受賞者一覧

【本年度体育会功労賞受賞者】

石井 優樹 (いしい ゆうき)

田口 彩華 (たぐち あやか)

経済学部

経済学部

陸上競技部

ボクシング部

三坂 一真 (みさか かずま)
 宮脇 千波 (みやわき ちなみ)
 尾井 恵子 (おい えこ)
 越智 俊介 (おち しゅんすけ)
 岡村 圭祐 (おかむら けいすけ)
 金丸 周平 (かなまる しゅうへい)
 我妻 彩里 (わがつま あやり)
 喜田 絢子 (きだ あやこ)

商学部
 国際学部
 教育学部
 経済学部
 経済学部
 社会学部
 社会学部
 法学部

水上競技部 競泳パート主将
 卓球部女子主将
 ヨット部 関西学生ヨット連盟委員長
 ボート部主将
 カヌー一部主将
 ラクロス部男子主将
 ラクロス部女子主将
 ラクロス部女子

3. 受賞者紹介



石井 優樹 (いしい ゆうき) 経済学部 陸上競技部

石井は、三年、四年次に日本学生陸上競技部個人選手権 5000m の部で大会 2 連覇を果たした。また、日本学生連合選抜として、全日本大学駅伝に出場し、1 区で選手史上初となる区間賞を達成した。エースとして結果を出し続けチームを牽引する姿や練習中に声かけやアドバイスをして献身的にチームを支える姿、試合時間が長い中応援してくれる人への感謝や気遣いをする姿から人望が厚く、誰からも応援される人物であった。常に驕らず真摯に協議に取り組む石井の存在はチームの成長にも大きく貢献した。



田口 彩華 (たぐち あやか) 経済学部 ボクシング部

田口は、部員唯一の女子選手で体力的にも精神的にも厳しい環境に身を置いて男子と同じメニューをこなしてきた。男子の試合でサポートやアドバイスする姿や真摯かつ誠実、謙虚にボクシングに取り組む姿から男子部員も厚い信頼を寄せており、その人柄から学外のボクシング関係者からも応援されていた。大学入学後に競技を始めてもオリンピックを狙えるまで成長した田口は他の部員の希望でもあり、現在もオリンピックに向けて努力し続けている姿は関学体育会の希望にもなっている。



三坂 一真 (みさか かずま) 商学部 水上競技部 競泳パート主将

三坂は、競泳パートの絶対的リーダーであり、一年次から常に勝負にこだわる姿勢を持っていた。主将になってからはチーム全員にも結果を求め続けるようになった。今までなかった陸上トレーニングのメニューを取り入れたことは、第 26 回関西春季短水路公式記録会において、4×100m リレーの部門で関西学生短水路新記録を樹立するなど、個人だけでなく、チームの競技力向上に大きく貢献した。常に厳しい言葉で水上競技部の自覚を部員に持たせていた三坂は、結果以上にチームの発展に偉大な存在であった。



宮脇 千波 (みやわき ちなみ) 国際学部 卓球部女子主将

宮脇は、同期の女子がいない中、4年間どんな時でも最後まで戦う姿勢や諦めない姿勢を貫き、部活の仲間だけでなく多くの人に勇気や感動を与えてきた。特に主将になってからは、後輩一人ひとりと向き合い、会話を重ね、意見を尊重することで大きな信頼を得て、チームを引っ張り続けた。更にチーム力向上のために今までなかったウエイトトレーニングの導入やビデオ撮影での分析を取り入れたことは、今年度の春季リーグ、秋季リーグ連覇達成という結果に大きな影響をもたらした。



尾井 恵子 (おい えこ) 教育学部 ヨット部 関西学生ヨット連盟委員長

尾井は、レースの運営をするヨットの学生連盟の委員長として関西水域のレースでは11の大学を管理、統括し運営を行った。西宮で全日本学生選手権があった際は約25の大学、100艇をこえる艇を管理し、大きな責任があった中、委員長としての仕事を全うしレースを成立させた。学連の業務が忙しく、練習に参加できない事も多かったが、その中でも仲間をサポートし続け、総合優勝を果たした2019年度関西学生ヨット選手権大会では結果でもチームに大きく貢献した。



越智 俊介 (おち しゅんすけ) 経済学部 ボート部主将

越智は、何でもそつなくこなす人であったが、その裏には苦しい所を見せずに努力し続ける姿があった。一人ひとりと真摯に向き合い全員がしやすい環境作りをしたことで後輩からも慕われ監督からの信頼度も高かった。また、マネージャーと選手との壁を取るために一対一で面談したり、部員全員が交わる機会を作ったりしたことによって一体感を生んだチームは今年度、37年ぶりに関西選手権決勝進出という結果を残し、チームの発展に大きく貢献した。



岡村 圭祐 (おかむら けいすけ) 経済学部 カヌー一部主将

岡村は、ミーティングを何度も開き部員たちの声を聴いたり、今までの関学にはなかった練習方法でも部全体が強くなるために必要であれば躊躇なく取り入れたりチームの改革に力を注いだ。また、ミーティングで出た部員からの意見を積極的に反映したことは部員全員の存在意義にもなり、そのような姿勢から岡村は愛される主将であった。岡村のためにも勝ちたいというチームの一体感は第55回関西選手権制覇という結果につながった。



金丸 周平 (かなまる しゅうへい) 社会学部 ラクロス部男子主将

金丸は、A チームだけでなく、部内の全てのチームが日本一を取るという高い目標を掲げ、チームワークで勝つために後輩と自主練習を行ったり、スタッフとも積極的にコミュニケーションをとったりと、課題であった学年、スタッフ間の壁をなくすことに尽力した。また、組織として成長するためにリーダー講習会等に参加し、プレー面と組織面の双方からチームを牽引した。日本一には届かなかったが、第30回関西学生ラクロスリーグ戦ファイナル4では関西制覇を成し遂げ、関学ラクロス部としての意地を見せた。



我妻 彩里 (わがつま あやり) 社会学部 ラクロス部女子主将

我妻は、「全員が戦力」というスローガンを掲げ、部員一人ひとりにプレーや仕事の担当を持たせることでチームへの帰属意識を高め、一体感のある組織を作り上げた。社会学部のソーシャルワークを積極的に受講しその学びをチームに還元し、全員がチームに貢献できる環境を作りスローガンを体現したことで、第30回関西ラクロスリーグ1部優勝へと導いた。また、関学ラクロス部の支援のために、学生スポーツを支援している団体に直接出向き、関学体育会の社会からの認知度向上のためにも大きく貢献した。



喜田 絢子 (きだ あやこ) 法学部 ラクロス部女子

喜田は、年間計画を立て計画的にチームの共通の課題に着目することにこだわった。特に今までチームで重要視されていなかったドローの大切さを浸透させ、アメリカチームのプレーの研究を通して、自主練習の方法を提示することで関学全体のドローの強化を図った。その結果、昨年度の全日本学生選手権大会優勝に大きく貢献した。また、西日本で初の学生日本代表の主将としてチームをまとめあげ、第9回アジアパシフィック選手権大会で優勝し、日本のラクロス界の発展に大きく貢献した。

4. ご祝辞

○体育会会長 岡田 太志 様より



関西学院大学体育会功労賞授与式「祝辞」にかえて

関西学院大学を巣立っていかれる体育会、学生本部、42部49パート、応援団総部3部、そして総部放送局、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。最後の最後まで見事にやり抜かれました。皆さんの4年間のご奮闘と覇業を、108年の歴史を誇る関学体育会の新たな誇りとし心から讃え祝福いたします。

また、長年に亘って卒業生お一人お一人をアスリートとして育み見守ってこられたご家族、保証

人の方々をはじめとする関係各位の皆様方のお喜びは、いかばかりかと拝察いたします。心からお祝いを申し上げ、卒業生とともに深く感謝申し上げる次第です。

関西学院大学体育会は、1912年に武芸会、庭球会、野球会、端艇会の4部で学生会運動部として産声を上げました。今の皆さんもそうであるように、当時から、関学生は、進取の精神と好奇心に溢れ、グローバルな視点をもって海外にも積極的に目を向けていました。そして、卒業後も、多くの競技種目・競技団体で中心的役割を担い、わが国スポーツ界の発展に寄与されてきたことは紛れもない事実です。体育会42部は、それぞれの競技において、その草創期を精力的に担い、その競技の普及と発展に献身的に尽力され、今なお競技とともに歩み、競技の歴史を紡いでおられます。

改めて、関西学院のスクール・モットー、“Mastery for Service”の下、関学体育会のモットーは、“NOBLE STUBBORNNESS”です。皆さんご存知の通り、これは、もともと、畑敏三庭球部長（高等学部教授）が1920年に硬式庭球部で示された標語で、その後、体育会全体のモットーとなりました。ちょうど100年が経過したところです。1977年には、体育会と体育会OB倶楽部（現、関西学院大学体育会同窓倶楽部 K.G.A.A.）のご尽力で、総合体育館の傍らに、“NOBLE STUBBORNNESS”の石碑が建立されました。そこには、「気品の高い根性」という訳語が添えられています。STUBBORNNESSには、不屈の精神、ねばり強さ、といった時に勝利至上主義にも通ずる意味があります。体育会のモットーには、そこに、高貴な、品位ある、高尚な、といった意味を表すNOBLEという言葉が冠されています。このモットーは時代を超えて今なお輝き続けています。

こうした輝かしい歴史と伝統を誇る体育会は、こんにち、約2,500名の会員を擁するに至っています。体育会規則には、「本会の目的は、学院当局と一致協力し学院建学の精神に則り人格の陶冶、体育の振興を目指し、以って大学教育の一端を担い学院発展に寄与するを旨とする」と謳ってあります。そのため、関学体育会は、「スポーツと学業の両立」を活動の前提とし、会員に「NOBLE STUBBORNNESS」の体現を繰り返し問いかけ、また、それを強く求め続けてきました。皆さんが幹部となった本年度には、Academic Eligibility for KG athletes（関西学院大学体育会員における学業条件制度）が導入されました。大学入学当初は、練習、学習や生活環境の変化とともに、こうした関学体育会のあり方に戸惑や一抹の不安を覚えたかと思いますが、やがて皆さんは、体育会活動と学業を通して多くの気づきを得るとともに、その厳しさや葛藤に日々対峙し、時に悩み、考え、克服し、成功体験・失敗体験を通して学び、見事に自己成長を成し遂げてこられました。陰に陽に多くの貢献をされ、数々の覇業を達成してこられました。この意味では、何物にも代えがたい尊い4年間でありました。また、何よりも掛けがえのない生涯の友との出逢いがあったに違いありません。こうした経験と出逢いは、お一人お一人のこれからの人生をより豊かなものとし、必ずや大きな力となり、人生の糧となっていくに違いないと信じます。

改めて振り返るに、社会的にはどのような4年間だったのでしょうか。皆さんが過ごされた後半の2年間は、大きく2つの出来事が歴史に刻まれ、記憶に遺る年となりました。

ひとつは、大規模自然災害の多発と新型コロナウイルスの世界的な感染拡大です。2018年は、大阪北部地震、大豪雨、等々、大規模自然災害が多発した年でした。いまだ多くの方々も復興途中にあられます。そして、今は、新型コロナウイルスによる感染が世界的に拡大し続けています。被災された皆様、罹患された皆様に改めてお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興とご回復を皆さんと共に心よりお祈り申し上げます。

2つ目は、スポーツのあり方の問題です。大学スポーツのあり方、各種競技、競技団体のあり方、ひとりのアスリートとしてのあり方、指導者としてのあり方、等々が、これほどまでに広く深く厳しく問われた年、注視された年はこれまでなかったのではないのでしょうか。Golden Sports Yearsの真っ只中、スポーツへの関心が社会的にかつてない程の高まりを見せる中、わが国のスポーツ界は、明治期以降最大の転期、質的な大転換期を迎えつつあるのではないか。その胎動を確かに感じさせる2年間でありました。

こうした時代にあって、関学体育会は、モットーの“NOBLE STUBBORNNESS”をさらに高く掲げ、これからも、体育会としてのあり方、大学スポーツのあり方を不断に問い続けてまいります。関学体育会として、守るべきものは守り、変えられぬことはそれを落ち着いて受け入れる品格をもち、変えるべきことは勇気をもって変え、そのための知恵を出し合いながら、体育会の歴史と伝統を創造的に継承してまいります。

さて、卒業されると皆さんには、体育会同窓倶楽部の諸先輩がそうであられるように、いよいよ、関西学院のスクール・モットー、“Mastery for Service”と体育会のモットー、“NOBLE STUBBORNNESS”の体現者としての歩み、置かれた場所で様々な課題に挑み解決へと導く「強さと品位」を持った真のリーダーとしての歩みが期待されてきます。体育会と各部にその名を刻まれた皆さんには、社会的にもそうした歩みが期待されています。どうか、これまでの日々の厳しい練習が

そうであったように、これからも目標に向けて、一歩ずつ前へ前へと着実に歩を進めていって下さい。自らが意味を創造し続けていって下さい。

また、今後は、体育会同窓生として関学体育会、応援団総部に引き続き関わっていただき、後輩諸君のためにご尽力とお力添えを賜りますよう宜しくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、皆様とご家族の健康と安全の確保、そして感染の拡大防止を最優先と判断し、体育会功労賞授与式を中止することとなりました。そのため、功労賞授与式の中で、皆様と共にご卒業を祝い、数々の功労を互いに讃えあうことができなかつたことは誠に残念ではありますが、ご卒業にあたり、改めて、われわれが誇るモットー“NOBLE STUBBORNNESS”を覚え、それを、はなむけの言葉としてお贈りする次第です。

最後となりましたが、皆さんの末永いご健康とご活躍を確信とともに心より祈念し、体育会功労賞授与式「祝辞」の言葉にかえさせていただきます。

ご卒業、誠におめでとうございます。

○体育会同窓倶楽部会長 柳田 隆久 様より



体育会功労賞を受賞された皆さん、おめでとうございます。

文武両道を標榜し、Noble Stubbornness の精神をモットーとする我が体育会にあって特に技量、人格、識見に優れ、他の範となる見事な活躍をされました。

この快挙は関学体育会の歴史に燦然と輝き、末永く称えられることと思います。

同窓倶楽部を代表して心からの敬意と祝意を表します。

また、これを支えてこられましたご家族をはじめ全ての方々にもお祝いとお礼を申し上げます。

さて、体育会卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

4年間の研鑽を積み、Mastery for Service を体得してこれから社会に羽ばたこうとしている皆さんに大いなるエールを送ります。

私はいつも体育会は「関学の宝」だと思っています。体育会の活躍が学内外を問わず、関西学院に繋がる多くの人々に勇氣、感動を与え、常に関学を引っ張ってしてくれるからです。これからは「関学の宝」から「社会の宝」として与えられた場所でしっかりとリーダーシップを発揮して母校の名声を高めてください。

ただこれから皆さんが向かう社会は大変な荒波が待っています。厳しい試練に出会うことも少なからずあるでしょう。そんなときはチームメートと必死に頑張り切磋琢磨した日々を思い出ししっかりと乗り越えてください。そして頑張つて頑張りが過ぎて少し疲れた時は、ぜひ翼を休めに母校を訪ねてください。時計台、中央芝生、グラウンドは皆さんの「心のふるさと」です。きっと優しく迎え、癒してくれるに違いありません。

さて、この機会をお借りして体育会学生本部、応援団に心からの感謝を申し上げたいと思います。

学生本部が縁の下の力持ちとして42部をまとめてくれたおかげで各部が一致団結することが出来ました。

応援団は常に体育会の試合で献身的な応援を続けて下さり、選手達は鼓舞されて潜在力以上のものを出すことが出来ました。

これらの力も相まって体育会が充実し、昨今の好成績につながっていると思います。

体育会卒業生の皆さんはこれからは我々と同じ同窓倶楽部（K.G.A.A.）の仲間です。

一緒になって現役を応援し、母校の発展を願いましょう。

皆さんがお世話になったすべての方々に対する感謝の気持ちをいつまでも忘れずに関西学院大学の卒業生というだけではなく、体育会 OB,OG としての誇りを胸に心豊かで幸せに満ちた人生を歩んでいかれますようお祈り申し上げます。

5. 功労賞受賞者代表の言葉

○我妻 彩里 ラクロス部女子 主将

まずはじめに、私はこの賞は共に心技体生活を鍛えてきたチーム全員で頂いた賞であり、また関わって下さる全ての方々のお力添えがあり、頂いた賞であると考えています。

そして、チームの代表としてこのような光栄な賞を頂けることを大変嬉しく思います。

関学ラクロス部は関学体育会関係者の皆様、また沢山の OBG の皆様にお力添えを頂き、日々成長することが出来ています。だからこそ、私達の夢や目標は私達だけのものではないいつも強く感じていました。

そして、自分達が目標達成することでどれ程の人々が喜んでくれるのだろうどれ程の人々が勇気づけられ、前向きな気持ちになれるのだろうと考えると気持ちが高まり、更なる成長へと繋がったと思います。

沢山の OBG の皆様や、応援して下さいの方々和日本一という夢を目指し、喜びを共有できる時間はとても幸せでした。

4年間私達とともに戦って下さった全ての方々に感謝の気持ちで溢れています。

私にとって、日本一を目指すことは大きな挑戦でした。私は、「何故」日本一を目指すのか、何を「どんな気持ちで」するのかの2点を考え抜くことは目標達成において必要不可欠であると学びました。

それらは、辛い時やプレーが上手くいかない時、同期と衝突した時、部員に思いが上手く伝わらない時に、何度も何度も私自身を奮い立たせてくれ、仲間を信じ自分を信じ行動させ続けてくれるものでした。

関西学院大学で過ごした4年間、またラクロス部で学んだこと、たくさんの人に出会い、たくさんの仲間に恵まれたことを誇りに、今後も自分らしく精進したいと思います。

後輩の皆さんの素晴らしい活躍を心よりお祈りしております。

この度は本当にありがとうございました。

○尾井 恵子 ヨット部 関西学生ヨット連盟委員長

この度は、思いがけず体育会功労賞をいただけることになり、大変恐縮しております。

私は、高校 KG セーリングから7年間ヨットと共に過ごして来ました。22年の人生の、1/3がヨットと歩んだ道でした。風と共に爽やかに疾走するオシャレなマリンスポーツ、ヨット。そのイメージが覆されるのに時間はかかりませんでした。真夏の炎天下も極寒の中でも強風で海に出れない時以外は、ずっと海の上でした。辛くて、逃げ出したいことも幾度となくありました。腰を痛め、練習が出来ず裏方に徹したこともありました。それでも、試合で結果を出せた時には喜びでいっぱいになり、辛かったことは一瞬で消えていきました。逆に、結果を出せずに悔し涙を流した時には支えてくれる仲間たちがいました。

3年、4年は学連の運営に携わり、試合を行うための準備に追われる日々を過ごしました。

練習するために、まず法的な許可が必要です。毎月、海上保安庁に許可を貰いに行くような仕事もありました。

また今年はインカレが地元西宮開催だったので、近隣の企業や施設に広告や寄付をお願いするのも学連の仕事でした。

こうした表には見えない裏での協力の上に試合が成り立つことを知りました。

学連を経験させて頂いたことで私は大きく変わりました。

これらのヨット部での経験が今日の私を作ってくれました。自信を持ってこれからも歩いていくことができます。

今後も、ヨットと関わりながら、微力ですが母校 関西学院大学ヨット部を応援して行くことになります。よろしくお願い致します。

名誉ある賞をいただけたのは、監督、コーチを始め、諸先輩方、後輩、学連の皆さま、そして同期の仲間のおかげによるものです。心から感謝致します。そしてここまでヨットを続けることが出来たのは家族の応援があつてこそです。

本当にありがとうございました。

6. 在校生代表の言葉

○染田 隆道 体育会学生本部本部長



あれほど厳しかった冬の寒さも、今では暖かな春の陽気になりました。学校に差し込む太陽の優しい光が、新しい季節の訪れを伝えてくれています。卒業生の皆様、並びに保護者の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。さて、卒業生の皆様はご入学されてから、本日に至るまで、様々なご経験をされて、ご卒業されることと思います。

この関西学院大学で過ごした日々は、どのような日々でしたでしょうか。懐かしく、思い出されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。大学生活を全力で走り通し、晴れやかな気持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私たち在校生は、皆様と過ごした日々を思い出しながら、感謝の気持ちと共に、寂しい気持ちで、胸がいっぱいです。勉学への励み方は勿論、仲間と協調し、協力し合うということ。目標に向かって団結し、1つのことを成し遂げること。優しく、時には厳しいご指導も、今では、宝物のような思い出です。

今、先輩方は、それぞれの道へと、羽ばたこうとしていらっしゃいます。就職、大学院進学と、道は違えどこの数年間、この関西学院大学の体育会として過ごした事は、先輩方の礎となっていることと思います。また、卒業後も時には母校に顔出し、ぜひ元気なお姿を見せてください。

先輩方皆様の、これからのご活躍を心からお祈りし、私からの挨拶とさせていただきます。ご卒業おめでとうございます。

7. 卒業生代表の言葉

○岩本 明駿 ボクシング部 体育会学生本部前本部長



体育会学生本部前本部長の岩本明駿です。4年間の締めくくりとなる卒業式・功労賞授与式が中止となり、直接お話する機会はなくなってしまいましたが、卒業生代表の挨拶として、私の気持ちを話します。

私は1年生の時になんとなく入ったボクシング部で副将になり、体育会の本部長も務めることができ、今までで一番楽しいことも、一番辛いことも、この体育会を通して経験することが出来ました。特に最後の1年間は、これまでの人生の中で最も濃い1年になりました。同時に

すごく辛かったのも事実です。泣いたこともあったし、挫折なんて何度も何度もしました。それでも僕は体育会が好きです。そう思えるのはきっと、そんな辛いことを超えられるくらいたくさん素敵な人たちに出会えたからです。自分のことは置いてチームのために動くことのできる人、どんな時でも努力を怠らない人、そこにいて周りをポジティブできる人、私を慕ってくれた人。自分がもし挑戦することや努力することをやめていたらきっと出会えなかったし、分かり合えなかった。体育会は私に努力する機会を与えてくれ、そしてたくさんのお会いをくれました。だから私は体育会が好きなのだと思います。社会人になってもそんな体育会のことを、みんなことを思い出さだろうし、会いたいと思うと思います。

考えすぎて眠れなかったことも、素敵な人たちに出会えたことも、本気で人に向き合ったことも、挑戦して失敗したことも、この4年間の全ての思い出が私にとって大切に、誰か一人、何か一つでもかけていたら今の自分はありません。厳しく、優しく指導して下さった体育会関係者の方々、いつも面倒を見てくれた先輩方、励ましあった同期、慕ってくれた後輩、そして支えてくれた家族、大学生活で関わった全ての皆様、4年間お世話になりました。本当にありがとうございました。

